

垂直離着陸・水平飛行が可能

小型無人機 来月にも実用化

航空システム研究

【名古屋】航空システム研究（名古屋市緑区、炭田潤一郎社長、052・891・5536）は、垂直離着陸と水平飛行が可能なる自律型の「テールシッター」式小型無人機を開発した。4月にも実用化する方針だ。世界で産業用無人機の開発競争が激しくなる中、ヘリコプターと固定翼機の両方のメリットを併せ持つテールシッター式を提案し、需要を掘り起こす考え。

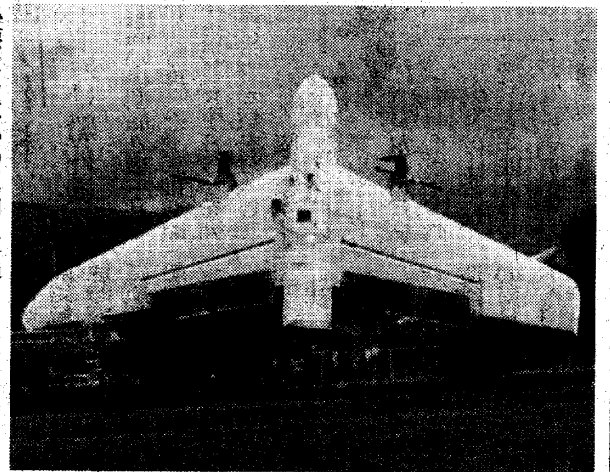
開発したのは二つのプロペラを備える電動式の飛行機。全長約50センチ（ペイロード）を搭載で幅約160センチ、重さ

は約3キログラム。小型カメラなど500グラムまでの荷物（ペイロード）を搭載できる。

機首を上に向けた状態で垂直に離陸。ソフトウェアによって姿勢を自律制御し、上空で機体を90

度回転して水平飛行に移行する。着陸時は再び機体を垂直にして降下。最高速度は時速約100キロで、20分間の飛行が可能だ。

火山の火口付近の撮影や山林・河川の観察、報道用の映像・写真撮影などに用途を見込む。垂直に離陸するため滑走路を



テールシッター型の小型無人機

必要としないのに加えて、固定翼機のような長い航続性能を両立できるのが特徴。既に運用第1弾として中部地域の史跡撮影が内定しているという。

同無人機は航空システム研究、エクストリーム・コンボジット・シャパン（三重県伊勢市）、中央エンジンアリング（東京都千代田区）、東京大学、九州大学の計5機関が連携して開発した。今後は航続性能を高めるため、2017年3月までの約2年間でガソリンエンジンの搭載機も開発する。飛行時間1時間、貨物搭載能力3キログラム以上を目標に、開発を進める考えだ。

（電子版に動画）

(H27.3.4)

by 杉本記者